第８号　平成２３年４月発行

菅平生き物通信

発行者　筑波大学菅平高原実験センター　〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294　Tel 0268-74-2002
Fax 0268-74-2016　ホームページ http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp
E-mail:ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp
© 2011 筑波大学菅平高原実験センター

高原の息吹を皆様に

センター長　沼田　治

東日本大震災の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

「菅平生き物通信」発行の目的に関して簡単に紹介させていただきます。

二〇〇九年十月十二日に筑波大学菅平高原実験センターは75周年を迎えました。センターの35ヘクタールの敷地には、数多くの樹木が植えられた樹木園、75年前の菅平の姿を残す草原、そして草原を放置して植物遷移を進めた結果の若齢のアカマツ林、樹齢を更に重ねたアカマツと広葉樹の混交林、約70年以上の林齢の広葉樹があります。この広葉樹林の中を流れる大明神の沢には大明神の滝が轟音をとどろかせています。このような自然が残っているセンターでは、教職員と学生たちが協力して、植物、菌類、昆虫などを研究材料として、生態学、分類学、発生学の教育や研究を進めています。しかしながら、地域の皆様にセンターの活動を十分に紹介する機会がありませんでした。そこで、幾つかの試みを開始しました。その一つが「菅平生き物通信」の発行です。スタッフ一同、菅平高原の四季折々の素晴らしさ、その中で生活する生物たちの面白い営み、そしてセンターで行われている教育や研究の紹介記事などを皆様のご家庭にお送りしたいと思います。

実験用草原

35ha を有するセンター敷地

大明神の滝

アカマツ林内観察道

「菅平生き物通信」発行の目的に関しては、簡単に紹介させていただきました。

「菅平生き物通信」をお読みになり、センターの活動に関心を持たれた方は、是非、センターにも足を運んでいただければと思います。オープンデーや公開講座も企画しており、樹木園も一般公開する予定でおります。スタッフ一同皆様と菅平高原実験センターでお会いすることを楽しみにしております。

「菅平生き物通信」配布拡大の挨拶

先号から東郷堂さんのご厚意で「菅平生き物通信」を上田市と青木村のご家庭に配布していただけることになりました。

新聞への折り込みを実現して下さった東郷堂さん、そして熱心な読者の皆様に心からお礼申し上げます。既に第7号から、皆様の下へ配布されておりますが、挨拶が遅れ申し訳ありません。

「菅平生き物通信」で取り上げて欲しい話題などございましたらお寄せください。お待ちいたしております。

なお「生き物通信第1号から6号」までのバックナンバーは、センターホームページからダウンロードすることが出来ます。ホームページをご覧になれない方は、センターまでご連絡ください。

編集後記

センターの窓からみえる景色は、まだ雪景色ですが、陽の光や鳥の声に春の気配を感じます。寒の戻りで寒い日もありますが、一歩一歩春が近づいているのを感じます。

毎日の天気予報では、被災地の天気が気になります。

食糧、燃料が足りなく不便な生活に耐えて過ごしている被災者の皆様に一日でも早く、春が訪れることを願わずにはいられません。

ニュースなどを聞いていると不安になることはありますが、被災地の方々に少しでも多くの物資が届くよう心掛けて生活をしたいと思います。

（池田雅子）

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんにご協力いただいています。

次号は6月　発行予定です

林内にセンサーカメラ設置

野生の哺乳類は、その多くが夜行性であり、直接観察することが難しいです。日中に活動する動物でも、人の気配に敏感で、近づくことすら難しいものも少なくありません。そこで大変便利なのが、無人でも観察対象の動物を感知し、その姿を画像として自動で記録可能なセンサーカメラです。この装置を利用した自動撮影法は、野生動物の生息調査において主要な方法の一つです。本センターの学生実習では、1月に行われた実習で初めて導入されました。今回は、残念ながら動物たちの姿を捉えられませんでしたが、方法を改善することで、次回は多くの動物に出会えると確信しています。その成果は、追ってご報告いたします。

（佐久間　将）

学生によるセンサーカメラの設置

職員紹介

「第48回全日本スキー技術選手権大会」参加報告

技術職員　正木　大祐

3月7日～11日まで、白馬村八方尾根スキー場にて行われた「第48回全日本スキー技術選手権大会」に参加いたしました。

この大会は、アルペンレースのようにタイムを競うものでも、フリースタイル競技のように技の難易度が点数に反映されるものとも異なり、設定された斜面に対してどのようなターン弧を描くか、どれだけスキー板の性能を引き出すことが出来ているかなど、様々なポイントが評価され順位が決定します。菅平高原実験センターには多くの学生が実習に訪れます。冬季は体育学群の学生がスキー実習でセンターを利用する機会もありますので、そういった実習にも自分の経験を活かして携わっていけたらと考えています。「週末スキーヤーの星」を目指して、これからも頑張ります★

「第48技選hpアドレス」
lhttp://www.hakuba-happo.or.jp/48gisen/

競技中の筆者

になった今年度は、週末に練習をするという環境になり、昨シーズンまでのように練習に十分な時間があてられず、シーズン当初は不安なことばかりでした。ですが、職場の皆さんからのご支援、ご協力をいただき、いくつかの合宿に参加できたことで自分の技術を向上させることができ、自信を持って大会に臨めました。その結果、今大会は自分の力を発揮し、昨年の順位を大幅に上回ることができたことで悔いはありません。また、来年への課題も見つけることができた有意義な大会に